

**2025年度
神戸ブロック現職者共通研修
「事例検討・事例報告」**

**～事前説明～
抄録及びスライド作成
当日までの流れ**

開催概要

日時：2026年2月1日（日）
10:30～12:30予定（受付 9:30～）

場所：福祉のまちづくり研究所
（兵庫県立リハビリテーション中央病院の近く）

定員：発表者・検討者 各50名 ※先着順
聴講者（生涯ポイントはつきません） 100名

※事例報告指導者が当日聴講される場合、聴講者として申し込みを行ってください。

発表形式

発表時間：7分 質疑応答：3分（参加人数により変動）

**現職者共通研修「事例検討」「事例報告」の読み替え方法として、
自分以外の聴講時間として90分以上必要。**

当日は会場内のパソコンを使用

抄録作成要綱①

- A4用紙1枚、Word文書（Windows2003Ver以降）で作成→PDFに変換
- 余白 上下20mm、左右15mm
- 本文は2段組とし、文字数は1700字以内とする
- 題名の文字サイズは12ポイント、所属・氏名・本文は10～10.5ポイント
- 題名と所属・氏名、また所属・氏名と本文の間は一行ずつスペースをあける

抄録作成要綱②

本文には【はじめに】【症例紹介】【評価】【内容と経過】【結果】【考察】等の小見出しをつける

原則として倫理的配慮に関する記載が必要

関係機関の倫理審査委員会等の承諾を得た場合はそのことを記載

発表への同意を得た旨を記載（例：報告にあたり、本人の同意を得た）

図表は不鮮明にならないように注意し必要に応じて挿入可能

抄録作成要項のまとめ

こちらを参考に作成をお願いします。

※提出時はWordからPDFに変換

左半側空間無視患者に対する前庭系賦活の有用性

【はじめに】近年、左半側空間無視の病態は脳脊髄系・小脳・基底核・大脳の適応に関しては実用的でないことも指摘されている。そこで今回、左半側空間無視患者の非麻痺側肢の運動を誘導し、非麻痺側肢の運動が出現するまで、座位で正中位に棒を垂直に立て、棒の左右を覗くように重心移動を誘導した。これに対し強い抵抗を示したため背もたれへの適応を促し、狭い範囲から徐々に運動を拡大し前庭入力、体幹・頸部の固有感覚と視覚を統合することによって、左半側空間無視の回復を促進することを目的とした。

【症例紹介】70歳代男性。診断名：右急性硬膜下血腫術後・脳挫傷。現病歴：X年Y月転倒受傷、X+1月+5日血腫の拡大を認め穿頭血腫除手術施行、X+2月+2日当院転院。既往歴：60歳代に脳梗塞、左片麻痺（杖歩行自立）。画像所見：頭部CTで両側前頭葉、右頭頂葉・後頭葉に脳挫傷後の低吸収域を認めた。頭部MRIで両側前頭葉・後頭葉に脳挫傷後の高信号域を認めた。経過：入院後、左半身の麻痺が軽快し、歩行が安定した。また、左半側空間無視の症状が軽減した。最終的に、日常生活動作がほぼ自立となった。

【作業療法評価】左Br.stage：上肢Ⅲ・手指Ⅳ・下肢Ⅲ。触覚・位置覚：重度鈍麻。左同名半盲。机上検査で重度の左半側空間無視。病態失認。HDS-R：14/30点。ADL：ほぼ全介助状態（FIM26/126点）。食事はベッド上でスプーンにて可能だが、左側の食器の見落としあり。Pusher現象を認め、車いすからずり落ちる事が多く特に移乗動作は重度介助。

【治療内容と経過】車いす座位で正中位に棒を垂直に立て、棒の左右を覗くように重心移動を誘導した。これに対し強い抵抗を示したため背もたれへの適応を促し、狭い範囲から徐々に運動を拡大し前庭入力、体幹・頸部の固有感覚と視覚を統合することによって、左半側空間無視の回復を促進することを目的とした。

【結果】線分抹消試験で改善を認め、線二分等分試験、時計描画試験は若干の改善であった。ADL：包摂点注意！と、で統一する。が軽快し、方向転換が中等度介助となった。車いすでの食事が可能となったが左側の食べ残しは残存した。

【参考文献】Karnath H-O, Dieterich M : Spatial neglect and vestibular disorder?. Brain 129: 293 - 305, 2006.

石合 純夫：半側空間無視の代償と回復。失語症研究 16 : 22 - 29, 1996。

スライド作成要綱

スライドの作成はMicrosoft Power Pointで作成

静止画のみ使用可能

アニメーション・動画使用不可

※ Microsoft Power PointからPDFに変換したものを
問い合わせ先までメールに添付し送信してください。

メールで添付フォルダを送信する際の注意点

メールの件名に所属と名前のみ記入

例①

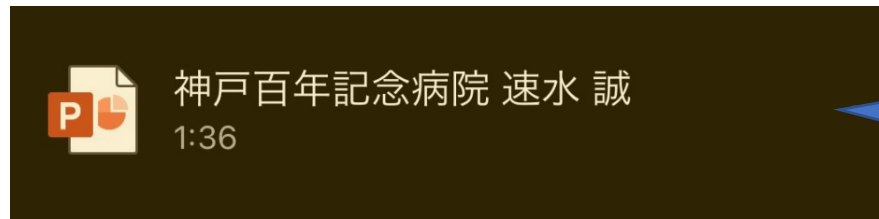
送信先アドレス：

kobeblock2020@gmail.com

問い合わせ先：神戸百年記念病院 柳川 真有美

抄録及びスライドのファイル名には所属と名前のみ記入

例②



添付ファイルは
Word及びPowerPointを
PDFに変換

タイムスケジュール

2026年2月1日（日）

9：30	会場受付開始
10：25	開会の挨拶 進行についての説明
10：30	発表開始
11：15	休憩
11：30	発表再開
12：30	閉会の挨拶 優秀演題の表彰及び事務連絡等

※予定であり、演題数によってタイムスケジュールは
変更になる可能性があります

事例報告指導者について

事例報告指導者に関しては発表者が各自で確保してください

※事例報告指導者の確保が難しい場合は運営が協力しますのでご相談ください

※事例報告指導者には2ポイント付与

但し日本作業療法士協会かつ県士会員であり、生涯教育制度基礎研修修了者であること

※発表者1人につき1人の事例報告指導者が付くようお願いします

発表決定後の流れ

抄録提出期間	2025年12月15日（月）～12月24日（水）	メール・PDF
スライド提出期間	2026年1月13日（火）～1月21日（水）	メール・PDF
抄録集の配布	2026年1月22日（木）ごろ Peatixのメールでお知らせ 各自ダウンロード	メール・Peatix
事例報告・検討会	2026年2月1日（日） 9：30受付開始	会場

問い合わせ先：神戸百年記念病院 柳川 真有美

kobeblock2020@gmail.com

件名には、氏名・件名の内容を記載し、送信していただきますようお願いいたします。